

令和3・4年度 朝霞市教育委員会研究開発学校指定研究発表

学習指導案綴り

〈研究主題〉

「主体的に取り組み、学びを深めることができる児童の育成」

～ICT機器の効果的な活用～



令和4年11月11日（金）

朝霞市立朝霞第九小学校

目次

I 低学年ブロック指導案 1

教科 : 算数

授業者 : 太田 啓輔

教室 : 2年2組

II 中学年ブロック指導案 9

教科 : 国語

授業者 : 富沢 鑑

教室 : 3年2組

III 高学年ブロック指導案 17

教科 : 特別の教科 道徳

授業者 : 江頭 拓実

教室 : 5年1組

－低学年ブロック－

第2学年2組 算数科学習指導案

令和4年11月11日（金）第5校時

在籍児童数 32名

授業者 教諭 太田 啓輔

1 単元名 九九をつくろう 「かけ算（2）」

2 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、学習に対して真面目に取り組むことができる。算数科において、ドリル的な計算問題では、概ね積極的に取り組み、楽しんで学習を進めることができる。しかし、自分の考えをノートに書き表すことができる児童は少ない。また、発表においては、答えが明確な場合は多くの児童が積極的に言えるが、文章問題や応用問題など説明をしながら自分の考え方を伝えることができる児童は少ない。また、最後まで話を聞くことや集中して課題に取り組むことが苦手な児童、文章を読んだだけでは場面をイメージすることが難しい児童もいる。

前単元のかけ算（1）のかけ算の意味の理解や、2、3、4、5の段の九九の構成、暗唱と適用・乗法と積の大きさの学習では、多様な考えに至らない児童もいるが、パターン化することで意欲的に取り組むことができた。

9月に行った算数科に対する関心・意欲・態度についてのアンケート（「算数の授業が好きですか。」の問いに対して「好き」と答えた児童が32名中30名、「算数の授業が楽しいですか。」の問いに対して「楽しい」と答えた児童が32名中31名、「授業の内容が理解できていますか。」の問いに対して「分かる」と答えた児童が32名中29名）からは、関心・意欲・態度が高いことが分かる。

そこで、チョコレートの数を数える場面を具体的にイメージさせるためにICTを使って、授業に集中して取り組めるようにする。小さな数から少しずつ数を増やし、「これならできそう。」と思える活動を入れる。また、ワークシートとタブレットを使う時間を意図的に分け、どの児童もめあてを達成しつつICTも活用できるようにする。

(2) 単元観

本単元で扱う乗法は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第2学年 A数と計算

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。

(イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。

(エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

(オ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする学習である。

児童はこれまでに、かけ算の意味や表し方を学習し、2の段から5の段までの九九を身に付けてきた。本単元では、これまでのかけ算九九の学習を生かしながら、乗法において成り立つ性質を用いて6の段から9の段までの九九を構成し、習熟を図る。そして九九表から乗法と積の関係、交換法則などの九九のきまりや性質をとらえたり、乗法九九を総合的に活用して問題を解決したりすることを通して、乗法の意味と九九について一層の習熟を図ることをねらいとしている。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まずそれぞれの段の九九は、前単元で発見し活用してきた乗法に関する性質（乗数が1増えると積は被乗数分だけ増えること）やきまり（被乗数と乗数を入れ替えても積は変わらないことなど）を用いることによって児童自ら構成できるようにしたい。また、乗法九九の構成をする中でも、児童が意欲的に学習に参加できるよう具体物や図を積極的に使い、乗法の性質やきまりについて、児童が自ら調べ発見できるように指導したい。児童のかけ算九九に対する興味・関心は全体的に高く、楽しみにしている児童が多い。その興味・関心をさらに高め、学習意欲につなげられるよう、振り返りに書かれている児童の思いを反映するように授業構成の工夫に努める。また、「自力解決」から「ペア交流」、そして「全体での練り上げ」という学習過程で自分の考えを明確にすることで、主体的・対話的に学ぶことができるようにし、自分の考えを発表する力も伸ばしていきたい。

3 研究主題とその関連

【主題】

「主体的に取り組み、学びを深めることができる児童の育成」～ICT機器の効果的な活用～

【目指す児童像】

ICTを文房具のように活用し、自らの学習を深め調整することができる児童

【仮説】

- 1 ICT機器の様々な活用法を学ぶことで、主体的に学習に取り組むことができるだろう。
- 2 教員と児童がICT機器を効果的に活用することで、より学びを深めることができるだろう。

<仮説に対する手立て>

① 主体的に取り組むための手立て

- ・身近なものを使って考えだんだんと増えるチョコレートの数について考えることで、日常生活と関連付けながら問題に取り組めるようにする。

② 学びを深めるための手立て

- ・ワークシートとICTを意図的に使い分けることで、色々な考えがあることに気付くきっかけを作ることができるようにする。
- ・大型テレビに映すことで、児童の考えを全体で確認できるようにする。

4 ICT活用の意図

【大型テレビの活用】

- ・導入や練り上げにおいて、主体性を高め、児童の考えが全体に伝わりやすくなるようにする。

【iPadの活用】

- ・円を動かしてみる活動を行うことで、児童が色々な考え方に触れ、理解しやすくなるようにする。

5 単元の目標

乗法の意味について理解を深め、計算の意味や計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質やきまりを見いだしたりする力を養うとともに、計算方法などを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

6 学習指導計画（17時間扱い）

| 時 | 学習内容 | 態 | 知・技 | 思・判・表 | 主な評価規準 |
|---------------|------------------------------|---|-----|-------|--|
| 1 | ○6の段の九九の構成 | ○ | | | 態 乗法のよさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 |
| 2・3 | ○6の段の九九の構成 | | ○ | ○ | 知・技 乗法九九を構成し、確実に唱えたりすることができる。 |
| 4 | ○6の段の九九の記憶、適用 | ○ | | | 思・判・表 数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。 |
| 5・6 | ○7の段の九九の構成 ○7の段の九九の記憶、適用 | | ○ | ○ | |
| 7 | ○8の段の九九の構成 | | ○ | | 態 乗法のよさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 |
| 8 | ○8の段の九九の記憶、適用 | ○ | | | 知・技 乗法九九を構成し、確実に唱えたりすることができる。 |
| 9 | ○9の段の九九の構成 適用 | | ○ | ○ | 思・判・表 数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。 |
| 10 | ○1の段の九九の構成 | | ○ | | |
| 11 | ○九九の習熟、定着 | ○ | | | |
| 12 | ○乗法に関しての成り立つ性質の理解 | | | ○ | 態 乗法のよさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 |
| 13 | ○乗法九九を用いてきまりを見付けたり、説明したりする活動 | ○ | | | 思・判・表 数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。 |
| 14 | ○「ばい」の意味の理解、適用 | ○ | ○ | | 知・技 乗法が用いられている場面を絵や図、言葉、式で表すことができる。 態 乗法のよさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 |
| 15 本時 | ○乗法の活用 | | | ○ | 知・技 乗法を用いるとその総数を簡潔に求めることができるよさに気付き、今後の生活や学習に活用しようとしている。 |
| 16 ・ 17 | ○学習の内容の定着 | ○ | ○ | | ・乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にする。 態 乗法のよさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 思・判・表 数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。 |

7 本時の学習指導（15 / 17時）

(1) 目標

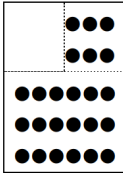
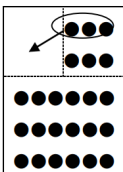
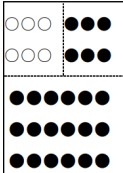
- ・乗法九九を総合的に活用して問題を解決する。

(2) 評価規準

- ・数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。【思考力・判断力・表現力等】

(3) 展開

| 時間 | 学習活動 | 学習内容 | ・指導上の留意点 評価 〈方法〉 | I C T |
|----|---|---------|---|--|
| 3 | 1 本時の課題をつかむ。 「チョコレートは全部で何個ありますか？」 | ○数を数える | ・大型テレビでだんだん数が大きくなっていくチョコレートが並んだ画像を見せ、数を求めることについての意識を高める。 | ・TV チョコレートが並んだ画像を見せる。 |
| 7 | 2 めあてを確認する。 「前の時間に学習したことと、どこがちがいますか。」 「自分の考えを iPad に言葉や図で表しましょう。」 | ○めあての把握 | はこの中のチョコレートの数をくふうしてもとめよう。 ・九九が使えるということ、画像に線を書き入れながら共有する。 ・かけ算1回では求められないことをおさえ、きれいな形（四角いところ）は、九九で表しやすい、ということを確認する。 | ・TV チョコレートが並んだ画像に、線を書く。 |
| 10 | 3 まとまりを考えながらチョコレートの数を求める。 「自分の考えを言葉や図で書いてみましょう。」 | ○自力解決 | ・ワークシートを用意し、児童一人一人が取り組めるようにする。 ・どの子も学習に取り組めるよう、見る観点を書いたヒントカードを掲示する。 | ・写真アプリ ・Padlet 自分の考えを説明できるようにする。 |

| | | | | |
|----|---|--|--|---------------------------------------|
| 5 | <p>4 友達の考えを見て、自分の考えを深める。 「自分の考えと同じところ・違うところはありますか？」</p> | <p>○言語活動</p> | <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="margin-bottom: 20px;">  <p>・①分けるさくせん $2 \times 3 = 6$ $3 \times 6 = 18$ $6 + 18 = 24$ <u>答え 2 4 こ</u></p> </div> <div style="margin-bottom: 20px;">  <p>・②いどうさくせん <input type="radio"/> ア $6 \times 4 = 24$ <input type="radio"/> イ $4 \times 6 = 24$ <u>答え 2 4 こ</u></p> </div> <div>  <p>・③ひくさくせん $5 \times 6 = 30$ $2 \times 3 = 6$ $30 - 6 = 24$ <u>答え 2 4 こ</u></p> </div> </div> <p>・友達同士で考えを見合う時間を設ける。</p> <p>評価【思】 ものの数の求め方を、乗法を用いて解決できるように工夫して考え、説明している。 (ワークシート・発表) 「努力を要する」状況(C)への手立て)</p> <p>・様子を見ながら黒板の前に集め、計算の順序などを複数で考えられるようにする。</p> <p>・補助線の入ったヒントカードを渡し、自力解決を促せるようにする。</p> | |
| 10 | <p>5 全体で交流する。</p> | <p>○良い解法の見つけ方 ○自分の考えのまとめ方</p> | <p>・自分の考えをクラス全体に発表する。 ・発表者のワークシートを大型TVに映しながら発表させる。</p> | <p>・TVワークシートを映し、児童の考えを共有できるようにする。</p> |
| 3 | <p>6 まとめる。</p> | <p>●の数は、同じ数のまとまりにちゅう目して、かけ算を使ってまとめることができる。</p> | | |
| 7 | <p>7 本時の学習を振り返る</p> | | <p>・児童の言葉でまとめを考える。 ・全体で文章を共有し、共通している言葉を確認する。</p> <p>・iPadを使い、3つの考え方を再確認する。</p> | <p>・マークアップ ・PowerPoint</p> |

8 板書計画

11月19日(水)

P. 42

かけ算が1回では
もとめられない!

めあて
はこの中のチョコレートの数をくふうしてもとめよう。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| | | | ● | ● | ● |
| ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ● | ● | ● | ● | ● | ● |

分ける

うごかす

ないところをひく

児童の考え

児童の考え

児童の考え

児童の考え

考え方

- ・かけ算をつかう。
- ・分けてみる。

まとめ

●の数は、同じ数のまとまりにちゅう目して、かけ算をつかってもとめることができる。

－ 中学年ブロック －

第3学年2組 国語科学習指導案

令和4年11月11日(金) 第5校時
在籍児童数 25名
授業者 教諭 富沢 鑑

1 単元名・教材名

つたえたいことを、理由をあげて話そう「わたしたちの学校じまん」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 教材観

本単元では、「話したい事柄を選び、筋道を立てて話すこと」と、「相手を意識しながら話すこと」を重点的に指導する。

これまで児童は2年生で「楽しかったよ 二年生」で、1年間の思い出の中から伝えたいことを決めて個人で発表することを経験してきた。本単元では、その学習を活かし、1年生に向け、学校の自慢できるところについてグループごとに発表に取り組む。友達同士の話し合いを通し、伝え合うために必要な事柄を選び、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えさせていく。話す際は、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、よりよい発表へと繋げられるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、誰に対しても優しく、協力的である。男女分け隔てなく交流ができ、集団での活動にも前向きに取り組む児童が多い。一方で、グループで一つのことを決めたり、集団で発表したりという活動が昨今憚られているため、自分たちで進めることが難しいときもある。児童はこれまで「発表」に重点を置き、個々に学級の内部に向けて発表をする、という学習をしてきた。学級の外部に向けて、グループで話の組み立てを考えたり、話し方を工夫したりするのは数少ない活動である。本教材では今まで学習してきた「発表」を更に発展させて、「相手」を意識し役割を分担して、協力して発表することが本学級の児童にとって価値ある活動であると思われる。

(3) 指導観

本単元では、「自分たちの考え」を立ち上げ、それを他者に伝えるための理由や事例を集め、役割分担しながら協力して発表することが必要となる。個人では、認識していなかった対象の価値に気づき、また協働するからこそ身につけられる技能を習得できるようになることも多いだろう。発表の準備に当たっては、相手が1年生なので、平易な言葉で、伝えられるように指導していきたい。また、発表の際はICTを使って撮った画像を提示する。わかりやすい発表にするためにはどの写真を選択するのが良いか、マークアップ機能を使ってどんな書き込みをするのが良いかを友達同士で話し合わせ、効果的な資料を作成できるように指導していきたい。

3 研修主題と具体的な手立て

【主題】

「主体的に取り組み、学びを深めることができる児童の育成」～ICT機器の効果的な活用～

【目指す児童像】

ICTを文房具のように活用し、自らの学習を深め調整することができる児童

【仮説】

- 1 ICT機器の様々な活用法を学ぶことで、主体的に学習に取り組むことができるだろう。
- 2 教員と児童がICT機器を効果的に活用することで、より学びを深めることができるだろう。

〈仮説に対する手立て〉

① 主体的に取り組むための手立て

- ・発表により意欲的に取り組ませるために、画像を効果的に取り入れる。
- ・動画を撮影し視聴することで、客観的に話し方の課題を見つけることができ、話し方の改善につなげることができる。
- ・ICTを使って振り返りを行うことで、クラス全体の変容がわかり、次時への意欲に繋げることができる。

② 学びを深めるための手立て

- ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方について、動画を撮影し確認することで、より効果的な発表へと繋げることができる。

4 ICT活用の意図

【動画・画像の活用】

- ・話す順番に、話したい内容に関する写真を用意しておくことで、それらを見て子ども達は内容を思い出しながらか述することができ、また、聞き手にとっても、写真を見ながら聞くことで、内容を理解しやすくなる。
- ・マークアップ機能を活用することで、伝えたい情報を明確にすることができる。
- ・写真をアルバムにまとめることで、スムーズに写真を提示することができる。

【Apple TVの活用】

- ・Apple TVを使うことで、写真や動画を共有することができる。

【タイピングサイトの活用】

- ・楽しくタイピング練習をすることで、文字入力がスムーズにできるようにする。

【Forms・Padletの活用】

- ・Forms、Padletでアンケートをとることで、振り返りを全員で共有することができる。

5 単元の目標

- 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知(1)イ)
- 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら話することができる。(知(1)キ)
- 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア)
- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考案することができる。(思A(1)イ)
- 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思A(1)ウ)

6 単元で取り上げる言語活動

- グループで学校のよいところを紹介する発表を行う。

7 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <p>①相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ)</p> <p>②丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら話している。(1)キ)</p> <p>③考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> | <p>①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ)</p> <p>②「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)</p> | <p>①進んで言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意し、学習の見通しをもって、グループで練習し発表しようとしている。</p> |

8 指導と評価の計画〈全9時間扱い〉

| 時 | 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 |
|---|----------------------------------|---------------------|---|
| 1 | ・全体で「学校の自慢」を出し合い、分類整理する。 | ・話題についての確認 | 主体的に取り組む態度① [発言・観察] |
| 2 | ・グループで話し合い、自慢する事柄を決める。 | ・主題の設定 | ○自慢の場所が重ならないように配慮する。 |
| 3 | ・話の組み立てを考えて、発表原稿を作成する。 | ・発表用原稿の作成 | 知識・技能③ [観察・ノート記述] |
| 4 | ・自慢する理由を決めて、資料(画像)を集める。 | ・資料の収集 ・発表用資料の作成 | 思考・判断・表現① [観察・ワークシート記述] |
| 5 | ・発表の工夫を考えて、グループでの練習を始める。 | ・発表の練習 | 思考・判断・表現② [観察・発表] |
| 6 | ・発表の動画を撮影し、自分たちのグループの動画の感想を伝え合う。 | | 知識・技能② [観察・発表] |
| ⑦ | ・グループどうして視聴し合って、助言し合う。 | | 思考・判断・表現② [発表・観察] ○声の大きさ、間の取り方、言葉の抑揚や強弱を意識させる。 ○1年生にもわかりやすい言葉遣いで話すように指導する。 |

| | | | |
|---|----------------------------------|----------------|--|
| 8 | ・発表会を行う。 | ・発表 | 知識・技能① |
| 9 | ・発表会を振り返って、他のグループの発表について感想を述べ合う。 | ・感想交流 ・振り返り | [観察・発表] 思考・判断・表現② [観察・発表・ノート] ○単元を通して学んだことを自分の言葉でまとめ、今後にかさそうという思いをもてるようにする。 |

9 本時の学習指導（7／9時）

(1) 目標

- 交流して、話す場面を意識した話し方の工夫ができているかを考えることができる。

(2) 評価規準

- 交流して、話す場面を意識した話し方の工夫ができているかを確かめている。

【思考力・判断力・表現力等】

(3) 展開

| 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 ○指導・援助 ◇評価 | 時間 |
|---------------------------------|---|--|----|
| 1 前時の振り返りをする。 | ・自分達の課題を確認させる。 | ○前時を振り返り、課題を捉えさせる。 | 5 |
| 2 本時のめあてをつかむ。 | 交流会に向けて、よりよい発表にするためにはどうしたらよいか考えよう。 | | |
| | ・話し方のポイントを意識させる。 ○声の大きさ ○強弱（言葉） ○間の取り方 ○視線（相手を見る） | ○低学年に伝わりやすい発表を意識させる。 | 5 |
| 3 兄弟グループの動画を視聴する。 | ・兄弟グループの発表動画を見る。 | | 7 |
| 4 動画を見て、付箋に「良かったところ」「改善点」を書き出す。 | ・付箋の色で、分けて書く。 青・・・良かったところ 赤・・・改善点 ・自分の班で意見をまとめる。 | ○「こうしたら良くなる」「ここはこうした方が良いのでは」など具体的に意見を出し合えるように指導する。 | |

| | | | |
|--|---|--|----|
| 5 付箋をもとに、兄弟グループでアドバイスを伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・兄弟グループで意見を交流する。 ・付箋を貼った用紙を渡す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童の気づきをもとに、対話的で深い学びになるよう配慮する。 ○意見を伝えるときは、良いところを先に伝えるよう指導する。 | 5 |
| 6 アドバイスをもらって、自分たちの発表がより良いものになるよう、改善点を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の班で話し合う。 | ◇話す場面を意識した話し方の工夫ができているかを確かめている。 | 5 |
| 7 話し合ったことをもとに、本番に向けて練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・よりわかりやすい発表になるように練習をする。 ・自分たちの発表がよりよいものになるために、必要であれば発表原稿の手直しをする。 | <p>評価場面</p> <p>【思考・判断・表現②】 〈評価方法〉発表・観察 〈手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて、話し方を工夫している児童をBとする。 〈「努力を要する」状況Cへの手立て〉 ・机間指導をして、助言をする。 | 7 |
| 8 Padletを使って学習を振り返る。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・集計結果よりクラス全体の変容を共有する。 | 10 |
| 9 次時の予告をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しをもたせる。 | | 1 |

10 板書計画

| | | |
|---|---|--|
| <p>○進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 兄弟グループの動画を見る。 ② 意見をふせんに書く。 ③ 兄弟グループに意見を伝える。 ④ 意見をもとに、はんで話し合う。 ⑤ 練習する。 | <p>○話し方のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○声の大きさ ○強弱（言葉） ○間を取る ○相手を見る | <p>わたしたちの学校じまん</p> <p>交流会に向けて、よりよい発表にするためにはどうしたらよいか考えよう。</p> |
|---|---|--|

| | | | | |
|---|---|---|----------|----------|
| 3 | 2 | 1 | じまんしたい理由 | じまんしたいもの |
| | | | 写真の場所 | |

| 目線 | 間 | 強弱 | 声の大きさ | (ほんから)のアドバイス |
|----|---|----|-------|--------------|
| | | | | |

－高学年ブロック－

第5学年1組 道徳科学習指導案

令和4年11月11日(金) 第5校時
在籍児童数 29名
授業者 教諭 江頭 拓実

1 主題名 「責任ある行動」とは 内容項目【A1 善悪の判断、自律、自由と責任】

2 ねらい

公園でキャッチボールをする中学生と、それを注意する男性の言い合いを見た「ぼく」の姿を通して、責任ある行動とはどんなものかを考えさせ、自由に伴う責任の大きさや、自分の行動が周囲に与える影響をよく考えたうえで行動しようとする判断力を育てる。

教材名 「いこいの広場」(出典「きみがいちばんひかるとき 5年」 光村図書)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年における内容項目〔A1 善悪の判断、自律、自由と責任〕「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。」を深めることをねらいとしている。世の中にはたくさんの自由があり、それらを選ぶ権利が一人一人に保障されている。しかし、自由とは自分だけのものではなく、相手や他の人の自由を認めることによって成り立っているものである。自由の捉え方を間違えてしまうと、周りに迷惑がかかったり、自分の将来に影響を及ぼしたりする。自由であることは、豊かな人間性を培っていくことに繋がるが、社会生活を営む上では、そこにきまりがなければならぬし、そこには必ず自己責任が伴うものである。その理解を基に、自分の生活と結び付けて考え、これまでやこれからの行動を見つめようとする態度を育てたい。また、自分の取った行動が周囲にどのような影響を及ぼすのかをよく考え、その上で自分の取るべき行動を判断する力を育てたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。困っている友達がいると、声をかけたり、手助けをしたりと、思いやりの心をもって接することのできる児童も多い。5年生になって、半年以上経ち、林間学校や委員会活動等を踏まえ、高学年としての自覚や責任をもって行動している様子が増えてきた。休み時間では、自由な時間ではあってもその中で次の時間の学習の準備をしたり、教室へ移動したりするなど、自律ある生活をしようとする姿が多く見られる。一方で、そうではない児童もいる。友達同士のやりとりでは、自分本位とも見られる言動で友達を困惑させてしまう場面も見られた。そこで、本時の学習を通して、自由に行動すること自体を大切にしながら自律的に判断して行動することが重要であると気付かせ、周囲やその後の影響を考えて責任ある行動を取ることを意識させたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、立場の異なる双方の自由について検討することで、責任ある行動や自律的な行動とは何かを考えることを通してねらいに迫るものである。

「いこいの広場」でキャッチボールをする中学生と、キャッチボールは別の場所でしてほしいと要求するおじさんのやり取りを、「ぼく」が目撃する。おじさんの主張に対し、中学生も反論するが両者とも納得せず、中学生がその場を立ち去る。やり取りを見ていた「ぼく」は自分がもしあの中学生であつたら、どうしただろうと考え始める。自分の自由や権利について、それぞれが主張し合う場面に基に、「自由に過ごすときに大切なことは何か」を考えさせることで、道徳的価値である「責任ある行動」について理解することができる教材である。

本時では身近な公園の写真为例として挙げることで、児童が自分事として考えられるようにしたい。これまでの自分の経験と比べながら、考えを深めていくようにする。また、児童によっては、キャッチボールをしている中学生の方に感情移入することも考えられる。その際は、そのように思っている中学生の言葉を聞いたとき、「ぼく」を通して、自分はどう思ったのかを問うようにしたい。

4 研究主題と具体的な手立て

【主題】

「主体的に取り組み、学びを深めることができる児童の育成」～ICT機器の効果的な活用～

【目指す児童像】

ICTを文房具のように活用し、自らの学習を深め調整することができる児童

【仮説】

- 1 ICT機器の様々な活用法を学ぶことで、主体的に学習に取り組むことができるだろう。
- 2 教員と児童がICT機器を効果的に活用することで、より学びを深めることができるだろう。

<仮説に対する手立て>

① 主体的に取り組むための手立て

- ・導入で事前アンケートの結果をテキストマイニングで表示し、開始時の学級としての捉え方を可視化することで、主体性を持たせる。
- ・クラスルームを活用することで、児童一人一人の心の数直線を学級で共有し、自分と他者との意見を比較しながら、さらに自分の考えを深めさせる。

② 学びを深めるための手立て

- ・心の数直線をクラスルームで画面共有することで、児童一人一人の立場を明確にする。
- ・Padletの活用により、即時的に振り返りを共有することで多様な考えに気付かせる。

5 ICT活用の意図

【Apple TV】

- ・ミラーリング機能を使って、タブレット端末の情報を大型TVで共有する。

【テキストマイニング】

- ・導入の段階で、学級の児童が「責任ある行動」についてどのように捉えているかを可視化する。

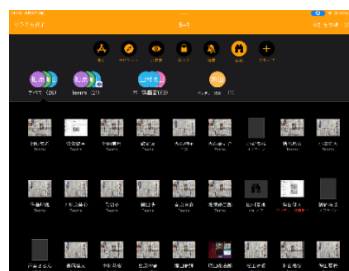


| No. | メールアドレス | 回答内容 |
|-----|-------------------------------------|---|
| 1 | 09x200158@esaka2020.onmicrosoft.com | 考えて行動、発言などを行う事 |
| 2 | 09x200158@esaka2020.onmicrosoft.com | 任せられた行動をやりととる事だと思います。また周りに見つけながら、行動する事だと思います。 |
| 3 | 09x200115@esaka2020.onmicrosoft.com | 自分の方で解決出来る行動 |
| 4 | 09x200152@esaka2020.onmicrosoft.com | 自分の気持ちに責任感を持つ。 |
| 5 | 09x200144@esaka2020.onmicrosoft.com | しっかり、考えたりすること。 |
| 6 | 09x200136@esaka2020.onmicrosoft.com | 自分が決めていることから行動にあわず |
| 7 | 09x200145@esaka2020.onmicrosoft.com | 人に何かを任せられること。 |
| 8 | 09x200154@esaka2020.onmicrosoft.com | 任せられたことをなすこと。 |
| 9 | 09x200113@esaka2020.onmicrosoft.com | 最後まで人のことを考えて行動すること。 |
| 10 | 09x200112@esaka2020.onmicrosoft.com | 決められた範囲内に行動を終わらせたり、やらなきゃいけないことに全力で取り組むこと。 |



【クラスルーム】

- ・児童一人一人の心の数直線による立場を全体で共有する。



【Padlet】

- ・「責任ある行動」についての振り返りを入力し、個々を書いたものを即時的に共有し、発言しやすい場を設ける。
- ・タブレットとApple TVを併用することで、児童一人一人の考えを全体で共有できるようにする。

6 学習指導過程

| 時間 | 段階 | 学習活動・主な発問 | 予想される児童の発言 | ・指導上の留意点 ☆評価の視点 | I C T | |
|----|----|---|---|---|---|--|
| 5 | 導入 | <p>1 責任ある行動とはどんな行動かを考える。 (事前アンケート)</p> <p>2 広場はどんな場所なのかを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でやるということ ・最後までやること ・ボールなどで楽しく遊べる場所 ・自由に過ごせる場所 ・みんなが使う場所 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキストマイニングのワードをもとに、「責任」という言葉のイメージを想起させる。 ・近所の広場の写真を提示し、広場はみんなのための場所であり、互いのことを考えながら過ごすべき場所であるという認識を共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ ・Apple TV ・テキストマイニング | |
| 30 | 展開 | テーマ：責任ある行動とは、どのようなものだろう。 | | | | |
| | | <p>3 教材文を読んで「おじさん」と「中学生」の行動とその時の心情について考える。</p> <p>・「おじさん」と「中学生」のどちらの考えに近いですか。</p> | <p>〈おじさん〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かが怪我をしたら大変だから。 ・もしものことを考えているから。 ・危ないから。 <p>〈中学生〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気をつけて遊んでいけるから。 ・みんなの場所だから。 ・ボール遊びが禁止されていないから。 | <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんの意見に近い立場をとる児童が多いと考えられる。なぜ、中学生の言い分に反対であるのかを問い返ししながら明確にしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・iPad ・クラスルーム | |
| | | | | <p>[問い返しの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボールをしたい中学生は自由にはいけないのだろうか。 ・みんなの広場だから、キャッチボールをしても良いのではないか。 ・中学生はどうすれば良かったのだろうか。 | | |

| | | | | | |
|----|----|--|---|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・2人の中学生が考えておくべきだったことは、どのようなことだと思いますか。 ・責任ある行動とは、どのようなものだと思いますか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・万が一を考える。 ・周りの人のことも考えること。 ・自分中心で考えてはいけないこと。 ・自分のことだけでなく、みんなのことも考えて行動すること。 ・自由だからといって自分勝手に行動しないこと。 ・先のことを考えて行動すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に中学生の行動について考えることで、責任の伴っていない行動であったことに気づかせたい。 ☆自由と自分勝手の違いに目を向け、友達の発表を自分の考えと比べながら聞き、責任ある行動について考え、話し合っている。 | |
| 10 | 終末 | 4 本時の学習を振り返る。 | | <ul style="list-style-type: none"> ☆責任をもつために、「自分だったら」という視点で、どんなことに気をつけて行動すればよいか考え、記述している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Padlet |

7 他の教育活動との関連

| | |
|------|---|
| 事前指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動等を通して、自分の受け持った仕事に責任をもって取り組むことができるようにする。(通年) ・ICTの活用を通して、学級で児童一人一人の考えを共有する方法を学び、協働的な学びの良さを実感できるようにする。 |
| 道徳科 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材名「公園のきまりを作ろう」 きまりはどのように作られるのかを考えさせ、きまりの意義を理解させた上で、それを進んで守っていこうとする実践意欲と態度を育てる。 ・教材名「道案内」 親切な行いをする時に大切なことは何かを考えさせ、自分自身が相手にどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えて行動しようとする実践意欲と態度を育てる。 |

| | |
|--------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 教材名「いこいの広場」(本時) <p>責任ある行動とはどんなものかを考えさせ、自由に伴う責任の大きさや、自分の行動が周囲に与える影響をよく考えた上で行動しようとする判断力を育てる。</p> |
| 事後指導 | <ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体を通して、折にふれ、自分の行動を振り返る場を設け、責任ある行動ができるよう声かけを行う。(通年) |
| 家庭との連携 | <ul style="list-style-type: none"> 授業参観での道徳授業の公開や、懇談会等での学校生活の様子の伝達で、学校と家庭との指導における共通理解を図る。 |

8 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

自由に振る舞うことと自分勝手に振る舞うことの違いに目を向け、責任ある行動についての考えを広げている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

「自分だったら」という視点で、責任をもつために、どんなことに気をつけて行動すればよいか考え、記述している。

9 板書計画

| | | |
|---------------------------------|----------------------|--------------------|
| いこいの広場 | | |
| テーマ 責任ある行動とは、どのようなものだろう。 | | |
| ☆責任…自分で、最後まで | | ○2人の中学生が考えるべきだったこと |
| ☆広場…自由、ボール、みんな | | ・万が一を考えること |
| | | ・周りの人のことも考えること |
| ・「おじさん」と「中学生」のどちらの 考えに近いですか。 | | ・自分中心で考えないこと |
| <u>おじさん</u> | <u>中学生</u> | ☆責任ある行動について |
| ・誰かが怪我をしたら | ・気をつけている | ① 今まで |
| ・もしものことを考えて いる | ・みんなの場所 ・禁止されていない | ② 学んだこと・分かったこと |
| | | ③ これから・疑問・考えたい |

10 参考文献

- 熊本市教育センター, 2022, デジタル教材,
(2022年8月29日取得, http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/tab_menu1.htm)

